



▲[左] ベスレム精神病院ギャラリー [中] 作 澤田 真一(撮影 高田真澄, 展示作品は変更する場合があります) [右] ベスレム精神病院ギャラリーのアトリエ

国際ワークショップ

精神医療の「過去」と「現在」を展示する — 医学史博物館と美術ギャラリーの社会的役割をめぐって —

「ミュージアム」と「ギャラリー」で精神医療をかんがえよう

アール・ブリュットとは、正規の美術教育を受けていない人々が独自の発想により生み出す芸術作品であり、フランス人画家のジャン・デュビュッフェが提唱した概念である。アートは「芸術」、ブリュットは「磨かれていない(加工していない)生のままの」の意味を持ち、「生き」の芸術」とも呼ばれている。わたしたちは、さまざまなかたちで、自らの「生」を限定している。伝統と流行、常識や慣習などにしたがって、わたしたちは生きている。こころの病や障害を持つひとたちは、なごらく施設の壁のなかに閉じ込められ、あるべき生はすでに決められていた。しかし、人の表現することへの欲求は、尽きることなく多様なかたちであふれ出るものである。そして、その枠にとらわれない創造がアートとなる。無限にひろがる表現の可能性は他者の心をゆさぶり、人の生を複雑に色づけてゆく。そのさきで、わたしたちの暮らしと社会はきっと豊かになるであろう。精神医療の空間で湧きあがる「生」のまえで立ちどまろう、凝視しよう、ふれよう、かんがえよう。

2018 9/17 月・祝 13:00~17:00

慶応義塾大学 日吉キャンパス

来往舎 シンポジウムスペース

▼ベスレム精神病院博物館
(同病院は13世紀ロンドンに創立)

ひとの「生」はしばられる。
しかし、しばられた先にも「生」はある。
湧きあがる「生」がある。
精神医療の空間で湧きあがる「生」のまえで
立ちどまろう、凝視しよう、ふれよう、かんがえよう。

当日プログラム

講演①

ミカエラ・ロス (ベスレム精神病院ギャラリー・研究開発主任)
「ベスレム精神病院におけるアートとエージェンシー」

紹介映像

「ベスレム精神病院博物館・文書館」

講演②

橋本 明 (愛知県立大学教育福祉学部・教授)
「精神医療の歴史をわかちあうー「私宅監置展」から学ぶこと」

講演③

アート 小林 瑞恵 (社会福祉法人愛成会・アート・ディレクター)
「アール・ブリュットー人間の根源的な創造の可能性」

講師プロフィール



ミカエラ・ロス

ロンドンに拠点をおくアーティスト兼研究者。FLAGや批評的実践といったアート集団にかかわり、これまでにアートの実践と教育の接点を探求する様々なイベントに参加してきた。

2005年には英国の芸術人文研究評議会奨学生となり、アーティストと諸制度の関係、そして現代アーティストと教育のかかわりについて学術的な研究を行ってきた。2013年にはロンドン芸術大学で博士号を取得。その後、ロンドンのテイト美術館、サーペンタイン・ギャラリー、ホワイト・チャペル・ギャラリーなどで、鑑賞者によるアートへの参加や解釈のあり方についての企画をおこなってきた。現在、ロンドン大学キングス・カレッジおよびゴールドスミス・カレッジにて非常勤講師を務めている。また、ベスレム精神病院ギャラリーでは、学術研究と一般向け啓発活動を担っている。



橋本 明

東京大学理学部で生物学を学び、東京大学大学院医学系研究科で精神衛生学を専攻した。ドイツ学術交流会(DAAD)の奨

学生としてデュッセルドルフ大学に留学し、2年間州立精神病院内に住んでいた。東京都立大学人文学部助手、山口県立大学看護学部助教授などを経て、現在は愛知県立大学教育福祉学部教授。おもに近現代日本の精神医療の歴史を研究している。著書としては編著『治療の場所と精神医療史』(日本評論社、2010年)、単著『精神病患者と私宅監置』(六花出版、2011年)などがある。



小林 瑞恵

社会福祉法人愛成会 副理事長・アートディレクター。アール・ブリュット関連の展覧会を国内外にて数多く手がける。2004年に障害のある人たちが創作活動を行う場「ア

トリエpangaea」(東京都)を立ち上げる。2012-2013年 ヨーロッパ巡回展「Outsider Art from Japan」(オランダ、イギリス)、2014年日本スイス国交樹立150周年記念事業「ART・BRUT / JAPANSCHWEIZ」展(スイス)、障害者の文化芸術国際交流事業2017 ジャパン×ナント プロジェクト日本のアール・ブリュット「KOMOREBI」展(フランス)、日本側キュレーター。2016年東京芸術文化評議会アール・ブリュット検討部会委員を務める。パリ東京文化タンドム2018「Art Brut Japonais II」展(フランス)、日本側キュレーター。

特設ギャラリー

9月17日(月・祝)の11:00~18:00まで、慶應義塾大学日吉キャンパス来往舎ギャラリースペースにて、「精神医療の歴史とアート」特別展を行います。ベスレム精神病院ギャラリー・社会福祉法人愛成会よりアール・ブリュット作品を、愛知県立大学橋本明研究室から近代日本における私宅監置の歴史に関するパネル展示をご提供いただきます。同日12時・17時半より30分間のギャラリー・トークもおこないます。英語通訳も行います。

ギャラリー・トーク

① 12:00-12:30 ② 17:30-18:00

入場無料・事前申し込み不要

日本学術振興会 課題設定による先導的人文学・
社会科学研究推進事業(実社会対応プログラム)採択事業
「医学史の現代的意義ー感染症対策の歴史化と
医学史研究の社会との対話の構築」

ウェブサイト「医学史と社会の対話」(<https://igakushitosyakai.jp>)

アクセス



お問い合わせ先

慶應義塾大学 鈴木晃仁研究室
akihitosuzuki3.0@gmail.com